

町田・相模原の経営をリードする町田・相模原経済同友会

武相エコノミスト

第6号

2016.8.1

BUSO ECONOMIST

sixth issue

2016夏 スペシャリスト対談

公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会
常務理事

高橋 秀文

株式会社オーディオテクニカ
代表取締役社長

松下 和雄

AREA TOPICS

リオデジャネイロ・パラリンピック タンデム 日本代表

鹿沼 由理恵 選手

武相エコノミスト

題字 小山克己 株式会社三和 代表取締役社長

表紙の人

日本障がい者スポーツ協会
常務理事の
高橋秀文氏と
株式会社オーディオテクニカの
松下和雄氏。
綱町三井倶楽部にて。

撮影 松田康司



c o n t e n t s

11	10	9	8	4-7
例会報告 2016.2～6	Area Topics 鹿沼由理恵 逆境を乗り越えて、リオに挑む 不屈のアスリート	綱町三井倶楽部 SMBCE日興証券株式会社 町田支店 木浦 健氏	Inside story of Tokyo Olympic 東京五輪を決定づけたシャトー・ディケム	2016夏スペシャリスト対談 インクルーシブな社会への 国民の大きな意識改革が 2020 TOKYOを成功へと導く 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 常務理事 高橋 秀文 × 株式会社オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄

THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY

町田・相模原経済同友会は2006年7月、「誰もが住みよい町田市」を目指し東京町田経済同友会として設立されました。その後、2008年4月に町田・相模原経済同友会となり、町田市と相模原市、すなわち武相の発展を目指す団体へと進化を遂げ、その実現に向け歩み続けております。

町田・相模原経済同友会の会員は、この地域において跳動している企業53社の経営者です。個々の企業経営者の「貢献する心」をベースに、業界や団体の枠を超えたネットワーク、時代の遷り変りを見る確かな目、そして問題を直視するリアリズムなど、そのリソースが最大の特色です。グローバルな視野で地域経済を捉える。つまり“think globally, act locally”な視点で調査・研究し、議論し、広く社会に影響を与えるべく行政への提言や講演会などの諸活動を行っております。また調査・研究や講演会など通じ、会員相互の交流は勿論の事、経営力の向上にも寄与しております。

会員の確固たる意志を礎に、確かな新しい時代を築くため、これまでも、そしてこれからも町田・相模原経済同友会は歩み続けます。

朝日リビング(株)	相模原土地開発(株)	(株)八朗平
(株)アドバンスインターナショナル	(株)三和	ファンリティパートナーズ(株)
(株)イーグル建創	(株)JTBコーポレートセールス(法営) 相模原支店	(株)フィルツ都市建築設計
いすゞ自動車首都圏(株) 相模原支店	昭和リース(株) 八王子支店	富士エクスプレス(株)
(株)井上積建築デザイン研究所	シー・エイチ・シー・システム(株)	ブリヂストン・タイヤ・ジャパン(株)
(株)ウィッツコミュニティ	西武信用金庫 町田支店	生産財カンパニー首都圏
(株)ヴィレッジ	千寿産業(株)	(株)ブレシア
SMBCE日興証券(株) 町田支店	(株)創建	北辰企業(株)
(株)オーディオテクニカ	損害保険ジャパン日本興亜(株)	細野コンクリート(株)
大野重電土木(株)	大和興産(株)	(株)ホンマ電機
(株)折本設備	医直源会 相模原南病院	(株)松田設備
(株)カイセ工業	東京ガスライフバル相模原(株)	(株)三ノ輪建設
(株)家具の大正堂	(学)東京町田学園町田デザイン専門学校	睦特殊金属工業(株)
(株)角松屋	(株)トーエル	山口自動車(株)
(株)ギオン	トブレック(株)	(有)マサハ・神奈川県議会議員
(株)キャロットシステムズ	(株)日本アクセス	横浜日野自動車(株) 相模原支店
草薙一郎法律事務所	野村証券(株) 町田支店	利恵産業(株)
(株)ケーユーホールディングス	菰生田税務会計事務所	(株)リガルジョイント

インクルーシブな社会への 国民の大きな意識改革が 2020TOKYOを成功へと導く

公益財団法人

日本障がい者スポーツ協会 常務理事

日本パラリンピック委員会 副委員長

株式会社オーディオテクニカ

代表取締役社長

高橋 秀文 × 松下 和雄

リオで開催されるオリ・パラが目前に迫る中、半世紀振りの東京開催に

期待が高まる反面、様々な課題も露呈している2020TOKYO。

イノベティブでポジティブな改革をもたらす為に必要なこととは一。

北京で17位、2012年のロンドン24位、ロンドン下がつてきています。

こうした現状下で、2011年にスポーツ基本法が成立し、障がい者スポーツが法的に明確に位置づけられました。さらに昨年10月には、スポーツ庁が発足し、国を挙げて障がい者スポーツの振興や強化に取り組む態勢がようやく整ってきました。今の最も基本的な課題は、障がい者スポーツの社会的な認知度を上げることだと思っています。競技を見てもあれば純粋なスポーツとしての魅力がわかりますし、同時に、残された機能を最大限に活かして可能性に挑戦するアスリートの姿に感銘し、障がい者スポーツ、障がいに対する認識が大きく変わると思います。そして、それを通じて、人間が皆顔かたちや性格が異なると同様、障がいも個性の一つとして捉え、そうした多様な個性が活かされる「共生社会への変革」を図っていくことが極めて大切だと考えています。

「障がいとは不可能を意味するものではない。障がい者を不可能にさせているのは分け隔てのある社会環境だ」という認識が社会に広がれば、障がいの有無に関わらず、誰もが可能性を追求し個性を発揮できる社会に向かうと思います。2020年東京パラリンピックは、こうした好循環を推進する起爆剤になりますし、皆で取り組むことによって社会を変えられると信じています。

次に、パラリンピックの課題についてです。国際パラリンピック委員会(IPC)が示し

ている、パラリンピック終了後に残すべき基本的なレガシー(遺産)は4つあります。1つは、都市全体のインクルーシブな(障がいのあるなしに関わらず誰でも受け入れられる)インフラ整備。2つ目は、障がい者スポーツそのものの発展、特に障がい者スポーツの普及拡大を図ること。3つ目は、障がいに対する社会の啓発。つまりインクルーシブな社会づくりには不可欠な国民の意識の変革を促すこと。4つ目は、インクルーシブな社会に必要な商品やサービスの開発、障がい者の教育や雇用機会の拡大。このようなレガシーを、2020年を超えて将来の日本の社会に残るようにしていくことがパラリンピック開催の最大の価値だと思います。

そのために現状の日本において最も重要な課題は、「ハード・ソフト両面でのバリアフリーの実現」だと思っています。例えば、車いすを使う人は障がい者だけではなく高齢者も同様ですし、ベビーカーにとっても動きやすいようにするというように、社会全体のアクセシビリティ(利用のしやすさ)を高めるといふ「ハード面でのバリアフリー」が必要です。さらに、障がい者も含めて、誰でも分け隔てなく個性とか能力を発揮できるような多様性を受け入れる社会を創っていくという、「心のバリアフリー」に向けた一人ひとりの意識変革もとても大切な課題だと思っています。

松下 私も今までオリンピック、それからパラリンピックの「音」を世界に伝えるという仕

司会 今日はお忙しいところ、ありがとうございます。まず、障がい者スポーツの魅力やパラリンピックの課題などを教えてください。
高橋 障がい者スポーツの魅力を一言でいえば、「失われた機能を数えるのではなく、残された機能を最大限に活かす」という基本理念に表れているように、自らを乗り越え、持てる機能を最大限に活かして限界に挑戦するアスリートの姿に、多くの人が感銘し、勇気を得るということにあると思います。

日本の障がい者スポーツは、1964年10月10日に始まった東京オリンピックに続き、11月7日から5日間開催された東京パラリンピックを契機に発展してきました。その東京パラリンピックでは、日本選手の多くは病院や施設からの参加であったのに対し、外国選手のほとんどは社会人として経済的に自立し、明るく澁刺していました。

事をサポートしてきたわけですが、今お話を伺ってパラリンピックの認識が随分低かったなと思います。これからはもうちょっとパラリンピックの感動を伝えることにも力を注がなければいけないと思った次第です。

私どもは1996年のアトランタ大会からスポーツの音を世界中に感動として伝えていきたいということで、オリンピックをサポートしてきたわけです。私どもは、オリンピックのスポンサーではないのですけれども、オリンピックを放送する際にどうしても欠かせない音をマイクロフォンで拾い、世界に伝えています。それは選手の足音だったり、室内競技でしたらシューズの床にこすれる音だったり、あるいはアーチェリーですと矢を放ったときの矢が飛んで行つて的に当たる、その飛んでいく羽根の音だったりします。それをいかに録るか。そして、当然



「町田、相模原でも出来ることはあるはず
まずは意識改革を。」

松下 和雄

株式会社オーディオテクニカ 代表取締役社長

日本ビクターを経て、1974年入社

1993年より代表取締役社長。

日本を代表する音響機器メーカー。

特にマイクロフォンはオリンピックやグラミー賞など
○ 国際的な舞台で使われている

「とにかく、まず観に来て欲しい。障がい者
スポーツの素晴らしさを体感して欲しい。」

高橋 秀文

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 常務理事
日本パラリンピック委員会 副委員長

東京ガス 顧問。1978年入社。導管企画部長、神奈川支社長、リビング本部営業第一部長・執行役員を経て、現職。2014年、日本障がい者スポーツ協会理事、日本パラリンピック委員会副委員長。

た瞬間の音をどう録るか。あるいは、近代五種の馬のひづめの音、そして馬のひづめがバーに当たったのがお客さんにどのように伝わるか。そういったことをずっと研究し続けてきまして、全競技場から感動を伝えたいと思っています。

そのために、われわれはマイクロフォンを提供するだけでなく、どういう位置にマイクロフォンをどうセットすれば本当の音が伝わるか、感動が伝わるのかをずっと探求してきたわけです。そして、例えば体操競技ですと粉の箱の下にマイクロフォンをセットして、選手が手を入れてばんばんとはたく、そういった音まで拾う。あるいは卓球台の下にマイクロフォンを張り付けて、ピンポンの音を録る。こういうことをずっと探求してきて、どこの競技場にどういうふうにとセットするかというマニュアルを作り、ボランティア

と一緒にたつてセッティングをする。それが私どもが今までやってきたことなんです。

高橋 なるほど、凄いですね。

松下 同時にオリンピックは一つの国で開催されますけれども、国の放送局だけで全競技の映像も音も録ることは不可能なんです。例えば、日本のNHKが全競技場、NHKの職員だけで賄うことは不可能で、競技によつてどの国がどの競技を、と担当分けをします。日本は柔道や体操といったように、国によつて担当するものが大体は決まっています。日本のカメラの方々は柔道を知っている方が多いですから、どこをどう録ればいいか、というのが分かつているからです。

高橋 そうだったんですか。

松下 カーリングを例にとりますと、今こそ日本でもそこそこ普及していますが、まだまだカーリング先進国ではありませんので、一番普及しているカナダの放送局が一番いい映像が録れるわけです。色々な国が一つのチームとなつて協力し合う。一つの国だけでオリンピックが運営できているわけじゃないんです。放送局の方だけでなくボランティアの方もいろいろな形で応援してくれて、音を録るだけでなく、会場の整備や入場の誘導ですとか、大勢の人々に支えられてオリンピック・パラリンピックは開催されているわけです。ですから、それを成功させるということは、担当してる方だけじゃなくて、国全体を挙げて、あるいは町全体を挙げて、全力でやらなくてはいけないと思っ

ています。

高橋 スポーツの世界は迫力が非常に重要なので、マイクロフォンがいかに場を盛り上げていたのか、音を伝える技術は大変なものがあるなと思います。そして、色々な国がチームとなつて協力しているということも始めて知りました。

松下 そうですね。私どもは現在、東京オリンピック・パラリンピックまではサポートするという約束をしています。

高橋 音、という部分で少し話をしますと、観客が音を一切立てちゃいけない、ゴールボールという聴覚障がい競技があるんです。ロンドンで日本の女子が金メダルを取った競技で、ボールの鈴の音を頼りにプレイするものなんです。コートの中の音は外には聞こえていいけど、逆に外の音は中に聞こえない会場設営ができないか、という話がでた



用して何か競技をしていただく。それに観客としてわれわれ市民が行くというような、そういう活動はどうでしょう。町田の人に、じゃあ遠くの県までということはなかなか難しいですよ。身近に親しめる競技場があつて、そこに観にいく、そのための協力ならできると思います。

高橋 それは大変ありがたいですね。「全競技会場の満員」のために、現在2つの施策を進めています。1つはパラアスリートを学校に派遣して競技や実演を行い、障がいを乗り越えた経験を伝え、小中学生のファンをつくること。さらにこれは家族ぐるみで観に来てくれることにつながります。2つ目は、スポンサーシップやアスリート雇用の増加、従業員のボランティア活動という面での企業のサポーター作りの推進。これにより社員が大勢ファンになつてくれることを期待しています。

さきほど、日本の現状の課題として、障がい者や障がい者スポーツに対する「心のバリアフリーの実現」についてお話をしました。小学校で障がい者スポーツの体験会を開催すると、最初はやや不安気に体育館に入ってくる子ども達も、実際に競技を見たり、選手と触れ合ったり、車いすに乗つて経験したりしているうちに、「選手達は凄い、カッコいい」ということになり、あつという間に「心のバリア」がなくなります。体験会を通じて子ども達たちに選手への憧れや尊敬の念が芽生え、さらにその後一緒に給食を食べると、給食が終わつても選手から離れ

りしています。ボールの音だけを頼りに行う聴覚障がい対象の種目が幾つかあるんですが、東京でせっかくやるのであれば、松下社長のお力を借りて会場の音という世界で新たなレガシーを作つたら、と思いました。

松下 それにはまず、どういうふうに録るかということを研究しなくてはいいですね。それに基づいてどういうことができるのかということです。オリンピックにしてもパラリンピックにしても選手にマイクロフォンを付けるというのは難しいことなんです。危険性もありますから。現在は遠くからガンマイクという長いマイクを幾つも配置して音を録つたりしていますが、それでどれくらい追従できるのかということなんです。違う競技になると、新たに考え出さなといいけないんですが、これからも研究してみたいと思います。

高橋 過去最高のオリンピックは2012年のロンドンといわれています。ロンドンでは、過去最多の164の国・地域から4300名の選手が参加し、278万枚の有料チケットが完売しました。テレビは1日16時間放映し、テレビ視聴者は世界で38億人だったと言われています。ゲームズメーカーと呼ばれたボランティアも、20万人を超える応募があり、その中から選ばれた7万人が大活躍しました。

1964年に続き、夏季大会では世界初の同一都市開催となる東京2020パラリンピックでは、このロンドン大会に負けない

なくなり、午後の授業への影響を先生が心配するくらい状況となります。

こんなこともありました。千葉市の小学校で体験会を開催した際、その週末に開かれた千葉市の車いすラグビー試合会場に、ある小学生が応援に来てくれました。金曜日の試合には下校後におじいちゃんと2人で会場に来てくれ、翌日土曜日は妹も含めて3人で、さらに日曜日には、お母さんと赤ちゃんも加わり家族5人で応援してくれました。子どもが父母や祖父母を教育することを「リバース・エデュケーション」と言いますが、この千葉市の小学生の実例は、子ども達がファンになれば親に影響して家族ぐるみのファンになっていくという理想的な出来事だったと思います。ロンドン大会も観客の75%は家族連れの観客だったといわれています。日本でも、ぜひそういう姿が実現できるように進めていきたいと思います。

松下 東京パラリンピックを待つまでもなく、その前から色々と準備していかないとダメですね。今から着実な準備を。そして少しでも力になれるよう町田が相模原で二つでも競技をしていただき、実際に障がい者スポーツを身近に感じていくのがいいのではという気がしました。経済同友会として出来るとしたら認知度アップや意識改革のお手伝いですね。

高橋 大変心強いです。パラリンピックというのと、とかく一般の人からは、障がいのある人がやる特別なスポーツという見方をされがちですが、決してそうではありません。

ような大成功を収めたいと思っています。それでは、何をすればロンドン大会を超える成果と言えるかということですが、それは「全競技会場の満員」ということだと思います。さきほど、ロンドン大会では278万枚の有料チケットが完売したと申しあげましたが、だからといって全競技会場が満員とはなっていないんです。車いすテニスの世界チャンピオンの国枝慎吾選手は、ロンドン大会で優勝しましたが、その決勝戦が行われたセンターコートは、空席の方がはるかに多いという状況でした。なぜそうしたことになるかといえば、一つの要因として、企業が有料チケットを購入したものの、平日の日の中の試合にそのチケットを使つて会場に足を運ぶまでには至らなかったといったことなどが挙げられます。

そこで、東京2020パラリンピックでは「全競技会場の満員」という大変高く難しい目標を掲げてチャレンジしていきたいと思っています。これは、例えばゴールボール、シッティングバレー、ボッチャといった日頃あまり目にしたことがない競技種目が仮に平日の午前中に行われ、かつ日本戦ではない外国チーム同士の試合であつてもその競技会場を満員にするということですから、並大抵の目標ではありません。でもこの「全競技会場満員」が実現できれば世界初の偉業ですし、それ以上に「東京のおもてなし」の凄さを世界に発信することにつながります。おもてなしというと、とかく、寿司、てんぷら、焼き焼、東京タワー、スカイツ

パラリンピック競技の認知度はまだまだ低いです。競技を見てその魅力を目の当たりにしていただければ認識が変わりますので、ぜひ一度試合会場で観戦していただければと思います。また、東京都が5月に銀座中央通りの一部を歩行者天国にして、車いすテニスやウィルチアールラグビーのデモンストレーション、車椅子バスケットボール、陸上競技、パワーリフティング、ボッチャ、ブラインドサッカー等のパラリンピック競技体験などを開催し、本場に多くの方が来場されました。町田市や相模原市でも、こうした活動を展開していただければ、認知度向上に大きくつながると思います。どうぞ、これからもよろしくお願いします。



町田・相模原経済同友会
例会講演会

高橋 秀文氏
「共生社会」実現への道

～障がい者スポーツの充実と
東京2020パラリンピックの
成功に向けて～

日時 10月20日(木)18:00～
会場 ホテル ラポール千寿間



100年の時を経て 今なお輝きを放ち続ける迎賓館

introducer SMBC日興証券(株)町田支店 木浦 健



上)1階ホール 中)東京五輪が決定した大食堂でSMBC日興証券の木浦氏 下)国内随一の品揃えを誇るバー

建物はルネサンス様式を基調とした宮殿造りで、バロックやビザンチンといった様々な建築様式が見事に調和している。本館前に広がる純英国風の西洋庭園もコンドルが外観とのバランスを緻密に計算して作ったもの。総敷地面積は8千坪で、江戸時代には諸藩が屋敷を

大正12年の関東大震災で損傷を受けたも、昭和4年に改修。太平洋戦争でも幸いに戦禍を逃れたが、敗戦後は進駐軍により接収され「米軍将校クラブ」として使用されていた。その後、昭和28年に返還され、現在は三井グループの会員制倶楽部となっている。国内外を問わず多くのVIPも訪れ、昭和天皇や皇后陛下をはじめ吉田茂や歴代総理、海外からはニクソンやロバート・ケネディも訪れた。

大正2年に竣工し、平成25年に100周年を迎えた網町三井倶楽部は、元々三井家の迎賓館として建てられた。設計は鹿鳴館の設計者として知られているイギリスの建築家ジョサイア・コンドル。彼が日本で手掛けた約80の建築作品の中でも最高傑作の一つと言われている。

変わゆく環境の中で、都会の喧騒を忘れさせてくれる静かな時が今も流れている空間。名実ともに、世界に誇る三井グループの迎賓館なのである。



館内で頂ける正統派のフランス料理にも定評がある。いつの時代にも優れた料理長が最高の料理を振る舞った。そのルーツは小説「天皇の料理番」にも登場した岩堀房吉氏で、日本におけるフランス料理の第一人者だ。地下にあるワインセラーも、フランスワインを中心に15000本の名品が保管されている。

構えていた場所だとされる。南側に広がる日本庭園部分は会津藩松平家の広大な下屋敷跡だった。エントランスを入り館内1階ホールから見上げた上部には楕円形の吹き抜けと、半球形のステンドグラスドームが。右手には時代を感じさせる重厚な木製の大階段があり、結婚式では新郎新婦が降りてくるセレモニーが定番となっている。

東京五輪を決定づけた シャトー・ディケム

Chateau d'Yquem 1947



敗戦からの復興と高度経済成長への礎を築いた東京オリンピック。半世紀の時を経て、いよいよ4年後に2度目の開催となるが、1964年の東京開催を決定づけたエピソードが網町の三井倶楽部にありと言われている。

昭和33年(1958年)5月、I.O.C.のブランドン・デジ会長一行が、東京の最終調査にやってきました。東京はオリンピック開催地の有力候補だったが、ヨーロッパやアメリカから距離的に遠いことや食べ物、生活習慣など幾つもの理由でヨーロッパ諸外

国が反対を唱えていた。その中に「第一、まともなワインを飲まない」という意見があった。この時、東京に開催能力が十二分にある事を証明し、彼らの不安を見事に払拭してみせたのが、ほかならぬブランドン・デジ会長だった。

その日、I.O.C.一行を迎えての晩餐会が網町三井倶楽部の本館で開かれた。ディナーの最後、ブランドン・デジ会長が、1947年ものの「シャトー・ディケム」を要求したのだ。「シャトー・ディケム」は世界3大貴腐ワインのひとつで、他の委員たちは、そんな貴重な物が日本にあるはずがない、会長もずいぶん意地悪く無理な注文をしたものだ、と笑いをこらえたに違いない。ところが、網町三井倶楽部では当然の様に「シャトー・ディケム」を用意するとテーブルに並べた。委員たちは驚き、その場で会長は「ワインさえない」と揶揄していた委員たちの眼前に「シャトー・ディケム」を掲げ、「東京に決めた」と宣言したという。

実はブランドン・デジ会長は、それ以前にも網町三井倶楽部で会食した経験があり、それ故に、ここに優れたワインがある事を十分に承知していたという話がある。1本の貴腐ワインが1964年の東京オリンピックの開催を決定づけたのである。

(引用 網町三井倶楽部ホームページより)



鹿沼 由理恵 1981年5月20日 町田市生まれ 町田第二中学校、都立山崎高校卒業
GOLD'S GYM エクスプレス町田 <http://www.goldsgym.jp/>

逆境を乗り越えて、リオに挑む 不屈のアスリート

弱視というハンディを持ちながらリオに挑む町田生まれのアスリート鹿沼由理恵さん。パラリンピックへの出場は2回目となるが、その道のりは決して平坦なものではなかった。障がいとアクシデント、2つの壁を乗り越えて世界に挑む彼女を支えてきたものとは――。

最大傾斜度45度のトラックを50km/h超のハイスピードで走る「タンデム」。健常者が前に乗りハンドルやブレーキ操作を行い、後ろで視覚障がい者が一緒に漕いでタイムを競う自転車競技だが、世界選手権での優勝経験もある鹿沼さんペアは、リオでのメダル候補だ。しかし、一歩間違えると大きなアクシデントに繋がる危険な競技でもある。

視力は左右ともに0.02。生まれつき目の焦点が合わない弱視だったが、小、中、高と健常者と変わらぬ生活を送ってきた。視覚障がいがあるとはいえ、幼い頃から甘やかされたことはなかった。母親の口癖は「出来ない事は工夫すれば出来るでしょ」。その言葉通り、出来ることを自分で見出し、工夫しながらハンディを補ってきた。

25歳でクロスカントリースキーを始め、2010年にはバンクーバーのパラリンピックに出場する実力となった。結果は惜しくも7位。4年後のソチに向けメダルを目指していた矢先、左肩の靭帯を損傷してしまう。ストックをつけなくなり競技を諦めざるを得なくなった。絶望のどん底で途方に暮れていた時、ライバルだったカナダの選手から

一通のメールが届いた。「私は自転車競技もやっているの。あなたもやってみたら？」その翌日、彼女は日本パラサイクリング連盟に電話をした。そして再び世界の頂点を目指し始めていた。

あれから5年。現在は都内の会社に週2日出社するが、それ以外はハードなトレーニングを行う毎日だ。2度目のパラリンピックとなるリオの舞台。勿論、目指すメダルの色は金色だ。一度は諦めた競技人生。障がいとアクシデントという2つの逆境を乗り越えて世界に挑む彼女は、きっと誰よりも強いはずだ。



上：競輪の田中まい選手とペアを組む鹿沼さん。右：まちだ市民大学の公開講座で

MONTHLY MEETING

例会 報告

February-June 2016

記念式典 2016 2/18 (木) ホテル ラポール千寿閣

町田・相模原経済同友会 設立10周年記念式典

前神奈川県知事の松沢成文氏や石阪町田市市長、加山相模原市長などのご来賓を迎え行われた10周年記念式典。松下代表幹事挨拶や会の設立趣旨・活動説明の後は、生演奏をバックに和やかな懇親会が行われました。



第77回 例会 2016 3/17 (木) ホテル ザ・エルシィ町田

人生は友だち力だ！ 蓑宮 武夫 氏

ソニー㈱元執行役員上席常務による人生論。どんな世界でも師や友との出会いが人生の転換期であり、失敗から何かを学び掴むこと、失敗しても怯まず新しいチャレンジに挑むことの重要性を強調されました。



第78回 例会 2016 4/14 (木) ホテル ザ・エルシィ町田

肝臓病の予防と 北里の新しい医療提供

学校法人北里研究所の常任理事で統括病院事業本部長、また医学博士の渋谷明隆氏の講話。地域の基幹病院として高度先進・急性期医療の質向上と、医療経営の持続的成長を目指す内容に全員が聞き入っていました。



2016年度 総会 2016 5/19 (木) ホテル ラポール千寿閣

第9回 町田・相模原経済同友会 総会

各議事、議案の報告、協議事項に関する報告があり、それぞれ可決承認となりました。町田・相模原経済同友会のさらなる活性化を目指した新たな委員会の設置案についても提案・審議が成されました。



第79回 例会 2016 6/16 (木) ホテル ラポール千寿閣

私達の生活の中で活躍する 近未来ロボット

アスラテック(株)チーフロボットクリエイター吉崎航氏による講演は、世界中で活躍する最先端のロボットを映像と共に紹介、未来に向けた様々なプロジェクトと可能性などについて刺激的なお話を伺いました。



武相エコノミスト

第6号

2016年8月1日発行

発行 町田・相模原経済同友会

〒194-0022 東京都町田市森野1-25-17 ワールドウィング内2F
TEL/FAX: 042-726-3577

制作 株式会社VisionDesign

町田・相模原経済同友会入会のお申込み・お問合せは
TEL 042-726-3577
<http://www.ms-doyukai.jp/>

※本紙掲載の写真、記事、ロゴの無断転載、および複写を禁じます



いっしょに、明日のこと。
Share the Future



SMBC日興証券

町田支店

TEL.042-726-2525

東京都町田市中町1-2-4 (小田急線町田駅北口)

